研究協議Ⅰ　文部科学省講話

「今後の高校教育の在り方について」

　　　文部科学省 初等中等教育局 参事官（高等学校担当）付 石田恵実子 氏

高校教育は現在、少子化や社会構造の変化に対応するため、大きな転換期を迎えており、教育の柔軟性と多様性を重視した改革が求められている。

令和7年2月、中央教育審議会高等学校教育の在り方ワーキンググループにおいて、これからの高校教育の在り方に関する審議まとめが公表され、今後の高校教育を考えていくに当たっての3つの論点が示された。

第一に、「少子化が加速する地域における高等学校教育の在り方」である。生徒数の減少に伴い、小規模校の教育条件改善や地域に根ざした学校づくりが一層重視されている。地方創生交付金や地財措置等も御活用いただきたい。専門高校を拠点とした地域人材育成や地域の課題解決への貢献という観点からも、地域で高校の果たす役割の大きさが再認識されている。

第二に、「全日制・定時制・通信制の望ましい在り方」が挙げられる。不登校や病気療養中の生徒が、自宅等から遠隔授業を受けたり、通信教育を活用したりすることを可能とする制度改正を実施した。制度改正、事例創出等を通じて、全日制・定時制・通信制いずれの課程においても、生徒の多様な学習ニーズに応える柔軟で質の高い学びを保障していくことが必要である。各学校・課程・学科の垣根を超える高等学校改革推進事業では、離島や中山間地域等、教育資源が限られる地域において、学校間連携や遠隔授業、通信教育を活用して多様な高校生の学びに対応した新たな高校教育モデルができないか検証を行っている。

第三に、「社会に開かれた教育課程、探究・文理横断・実践的な学びの推進」である。DXハイスクール事業、グローバル人材育成、理数系教育の充実等、多様な学びが広がっており、特色化・魅力化を図る学校への予算支援も拡充されている。従来の普通科改革事業やマイスターハイスクール事業がDXハイスクール事業と統合されているなど、今までの取組を一層一体的に進めていくことが効果的である。教育内容の多様化、地域との連携を重視した取組も各地で進められている。スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえて教育内容の充実につなげていただくことが望ましい。

また、通信制高校の急増に伴い、教育の質の確保と管理運営が課題となっている。文部科学省では、「高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン」や「通信制課程に係る私立高等学校の認可基準（標準例）」を策定し、通信制高校の質の確保・向上や所轄庁における適切な指導監督のための方策に取り組んでいる。特に、私立広域通信制高校においては、適切な指導や管理運営の在り方が問われており、教育の質を確保するための対応が急務となっている。不適切な運営事例も報告されており、今後はより厳格な指導監督、主体的な学校運営改善が求められる。公立においても、このようなことがないよう御留意いただきたい。

最後に、高校無償化に関する議論、次期学習指導要領に向けての議論が進められるなど、高校教育に関する社会の関心が高まっている。高校はもちろん、中学校や大学や社会との円滑なつながりを意識していただくとともに、関係する制度改正や財政支援の動向を的確に把握し、教育委員会や関係部署との連携を強化することで、学校運営の安定と教育の質向上につなげる必要がある。今後の高校教育は、生徒・学校・地域の多様性を尊重しつつ、社会に開かれた学びを実現する方向へと進んでいく。変化を前向きに捉え、学校現場と教育委員会、文部科学省が連携して取り組んでいきたいと考えている。